

## 平成28年度「日本史B」指導と評価の年間計画の概要

教科・科目・学年・単位数	地理歴史科・日本史B・第2学年・4単位
--------------	---------------------

### 1. 学習の到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

### 2. 到達目標に向けての具体的な取り組み

・日本の歴史が世界と密接な関連を持ちながら展開し、現代の国際関係にまで繋がっていることを認識できるように考察する時間を多く設定する。  
 ・諸資料の活用により、歴史的対象に対する興味や関心を喚起し、さらにそれを追究する姿勢を身に付けることができるような場面を多く設定する。

### 3. 学習の計画

月	単元名	使用教科書項目	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4 5	オリエンテーション	歴史と資料	1	・地域の古文書から身近な地域の歴史を考察し、生徒の興味・関心を高める。	行動観察
	第1章 日本文化のあけぼの	1. 文化のはじまり	2	・日本人のルーツや旧石器時代と縄文時代の生活について理解する。	プリント確認 レポート観察
		2. 農耕社会の成立	4	・弥生時代の特徴と中国との関係について史料を通して学ぶ。	
6	第2章 律令国家の形成	3. 古墳とヤマト政権	4	・古墳時代の社会と東アジア諸国との関係について史料を通して学び、ヤマト政権を構成する勢力の成立について理解する。	
		1. 飛鳥の朝廷	4	・東アジアの動向と対応する飛鳥朝廷の政策について理解する。	
	2. 律令国家の成立	4	・律令国家に尽くした人々の動きと、律令国家の仕組みについて学ぶ。		
7	第3章 貴族政治国風文化	3. 平城京の時代	4	・奈良時代のさまざまな政変や政策と民衆の暮らしについて理解する。	行動観察 プリント確認 レポート確認
		歴史の解釈	2	・身近な地域の資料から、飛騨地方の古代の交通を考察する。	
	前期中間考査	1			
8 9	第4章 中世社会の成立	4. 天平文化	3	・唐や仏教の影響を受けた天平文化を学ぶ。	行動観察 プリント確認 レポート確認
		5. 平安朝廷の形成	3	・中央政権の変容と平安時代初期の仏教や文化について学ぶ。	
	1. 摂関政治	3	・摂関政治の展開と遣唐使の廃止についての意義について考察する。		
10	第5章 武家社会の成長	2. 国風文化	4	・国風文化の特徴を現代に残る文化と関連付けて学ぶ。	行動観察 プリント確認 レポート確認
		3. 荘園と武士	3	・律令体制の崩壊と新たな武士の進出を荘園の拡大とともに考察する。	
	1. 院政と平氏の台頭	4	・院政の展開と平氏政権の台頭から、貴族社会から武家社会への移行が社会に何をもたらしたか考察する。		
11	第6章 幕藩体制の成立	2. 鎌倉幕府の成立	5	・鎌倉幕府と封建制度の仕組みについて理解する。	行動観察 プリント確認 レポート確認
		3. 武士の社会	5	・執権政治の展開と武士の生活について学ぶ。	
	4. 元寇と幕府の衰退	4	・元寇と幕府の衰退について社会や生活の変化から考察する。		
12	第7章 幕藩体制の展開	5. 鎌倉文化	4	・鎌倉時代の仏教や文化の特色を学ぶ。	行動観察 プリント確認 レポート確認
		前期末考査	1		
	1. 室町幕府の成立	5	・建武の新政と室町幕府の成立過程や仕組みを理解する。		
1 3	第8章 幕藩体制の動揺	2. 幕府の衰退と庶民の台頭	5	・武家政権の展開と、社会・経済の変容に伴う庶民文化の萌芽について学ぶ。	行動観察 プリント確認 レポート確認
		3. 室町文化	4	・室町文化は現代にどんな影響を残しているかを考察する。	
	4. 戦国大名の登場	5	・下剋上を背景に登場した戦国大名の富国強兵策を学ぶ。		
1 3	第9章 幕藩体制の動揺	歴史の解釈	2	・身近な地域の史跡から、飛騨地方の中世の展開を考察する。	行動観察 プリント確認 レポート確認
		1. 織豊政権	5	・織豊政権がその後に与えた影響と意義について考察する。	
	2. 桃山文化	5	・戦国時代という背景や西洋文化との接触により生まれた文化の特色を学ぶ。		
1 3	第10章 幕藩体制の動揺	3. 幕藩体制の成立	7	・集権的な封建支配体制の確立と身分秩序の固定化について理解する。	行動観察 プリント確認 レポート確認
		後期中間考査	1		
	1. 幕政の安定	7	・幕藩体制が安定してくる過程とその影響について考察する。		
1 3	第11章 幕藩体制の動揺	2. 経済の発展	6	・諸産業の展開とその社会的な役割について理解する。	行動観察 プリント確認 レポート確認
		3. 元禄文化	4	・幕政の安定に伴い発達した多彩な文化の特色を学ぶ。	
	1. 幕政の改革	7	・商品経済の発展に伴い、次第に幕藩体制が維持できなくなっていく歴史的過程を考察する。		
1 3	第12章 幕藩体制の動揺	2. 幕府の衰退	7	・国際情勢の変化と経済の変化に対する幕府の対応について考察する。	行動観察 プリント確認 レポート確認
		3. 化政文化	4	・町人を中心とする文化の繁栄について学ぶ。	
	学年末考査	1			
	合計		140		

### 4. 評価の観点・方法

評価は、次の4つの観点から行います。

- ・**関心・意欲・態度** 我が国の歴史に関心を持ち、意欲的に追究しようとしているか。
- ・**思考・判断・表現** 知識をもとに人類の課題を多面的・多角的に考察しようとしているか。
- ・**資料活用**の技能 資料を収集し、情報を選択して歴史的対象を追究する方法を身に付け、その過程や結果を表現できるか。
- ・**知識・理解** 我が国の歴史の展開を世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けているか。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年4回の定期考査
- ・授業中の問いに対する解答を記入して提出したプリント、ワークシートなど
- ・学習活動への参加の状況

また、1年間の評定は、年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

単元指導計画

単元名 「織豊政権」

1 基軸となる問い：織豊政権による統一事業によって、どのように社会は変容したか？

2 単元の目標

織豊政権による統一事業の展開によって、中世から近世へと社会はどのように変容したかを、身近な地域の歴史に着目しながら、考察させる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
①織豊政権による統一事業の展開と社会の変容に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。 ②身近な地域の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に学ぼうとしている。	①織豊政権による統一事業の展開と社会の変容を地域社会と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	①織豊政権による統一事業の展開と社会の変容、地域社会の歴史に関する諸資料から、有用な情報を適切に選択している。	①織豊政権による統一事業の展開と社会の変容について、地域社会の歴史と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 ②身近な地域の歴史について理解し、地域の歴史と文化を尊重しようとしている。

4 指導と評価の計画

次程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
1次 1第 2時間扱い	【ねらい】 身近な地域の史跡調査を通じて、地域社会の歴史への関心と課題意識を高めさせる。  ・桜洞城跡、諏訪城跡の現地調査を行い、考察した結果をプリントにまとめる。 →生徒が作成したプリントを第2次で資料として活用することを意識する。	●				②桜洞城、諏訪城の歴史、城跡周辺の環境に対する関心と課題意識を高め、意欲的に学ぼうとしている。 (ワークシート記述)
1次 2第 1時間扱い	【ねらい】 飛騨地方の戦国大名の興亡を考察することで、織豊政権の統一事業を身近な地域の視点から探究させる。  ・戦国時代の飛騨の状況、三木氏による飛騨統一までの流れを理解する。また、三木氏と地域の有力寺社との関わりから、戦国大名の性格を確認する。  ・グループワークを通じて、第1次で作成したレポートなどの諸資料を活用し、戦国大名の三木氏から豊臣政権の金森氏へと身近な地域の支配秩序が変容したことを考察し、文章にまとめる。			●	●	②地域社会の歴史について理解し、地域の歴史や文化を尊重している。 (プリント記述)  ①萩原町内の近接した場所に2つの城が作られた理由について考察する際、フィールドワークでの考察や諸資料から、有用な情報を適切に選択している。 (プリント、ワークシート記述)

次程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
第3次 （1時間扱い）	【ねらい】織豊政権が成立する時代背景を世界の動向と関連させて考察させる。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨーロッパ人の東アジア進出を世界史の既習事項と関連させて理解する。また、ヨーロッパ世界との接触を通じて、日本が世界の枠組みに組み込まれていく過程を理解する。</li> <li>南蛮貿易によってもたらされた鉄砲やキリスト教が、社会の仕組みを変えていく契機となったことを多面的・多角的に考察し、文章にまとめる。</li> </ul>				●	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ヨーロッパ人の東アジア進出という世界の動向と、それが日本に与えた影響について、その知識を身に付けている。 (プリント記述)</li> <li>②南蛮貿易による社会の変容を、戦法、城の構造の変化や南蛮屏風などの諸資料から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 (プリント記述)</li> </ul>
第4次 （1時間扱い）	【ねらい】織田信長の統一事業が可能であった理由を諸資料から多角的に考察させる。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦国大名の中で織田信長が全国統一を実行に移せた理由を領国の地理的条件、諸政策などの諸資料を活用して説明する。</li> <li>延暦寺、一揆、自治都市の制圧といった統一事業の展開から、権力の分散という状況が終息していく過程を考察し、文章にまとめる。</li> </ul>				●	<ul style="list-style-type: none"> <li>①織田信長の全国統一事業に関する諸資料から、有益な情報を適切に選択している。 (GW、プリント記述)</li> <li>②織田信長の全国統一事業の展開から、権力の集中が進んでいく状況を考察し、その過程や結果を適切に表現している。 (プリント記述)</li> </ul>
第5次 （1時間扱い）	【ねらい】豊臣秀吉が行った諸政策の分析を通じて、中世から近世へと社会がどのように変容していくかを考察させる。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊臣秀吉の統一事業の展開が各地域の支配秩序を変容させていく過程を、第1次・第2次の既習事項を踏まえながら理解する。</li> <li>太閤検地、刀狩などに関する資料の分析を通じて、中世的な土地制度、身分制度のあり方から、近世的な石高制、兵農分離へと変容していく過程を図表にまとめて説明する。</li> </ul>				●	<ul style="list-style-type: none"> <li>①豊臣秀吉の統一事業の展開と各地域の社会の変容を関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 (プリント記述)</li> <li>②近世国家の形成過程に関する諸資料から、有用な情報を読み取ったり、図表にまとめたりしている。 (GW、ワークシート記述)</li> </ul>

# 学 習 指 導 案

教科 (科目)	地理歴史 (日本史B)	単元名	織豊政権 (3/6時間)
本時の主題	なぜ近接した場所に2つの城 (桜洞城、諏訪城) が作られたのか。		
本時の目標	フィールドワークでの考察や各種資料を活用して、飛騨地方の戦国大名の興亡を考察することで、織豊政権の統一事業を身近な地域の視点から探究させる。		
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の歴史について理解し、地域の歴史や文化を尊重している。【知識・理解】</li> <li>・萩原町内の近接した場所に2つの城が作られた理由について、フィールドワークでの考察や諸資料から、有用な情報を適切に選択している。【資料活用の技能】</li> </ul>		
過程	指導の内容・ねらい	学習内容	指導上の留意点・観点別評価
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の主題追究に向けての動機付け。</li> <li>・本時の主題=MQの揭示。</li> </ul>	<p><b>SQ① (Sub Question)</b></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地図上の点は何の位置を示しているだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワーク。点が「城」であり、萩原町内に複数の城が存在したことを確認する。</li> </ul> <p><b>MQ (Main Question)</b></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜ近接した場所に2つの城 (桜洞城、諏訪城) が作られたのか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のプリントはSQ①の確認後、配布する。</li> <li>・桜洞城跡、諏訪城跡を廊下、教室の窓から目視し、その距離感を体感する。</li> </ul>
展開① (15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「桜洞城跡フィールドワーク資料」からの考察。</li> <li>・戦国時代の飛騨、三木氏の説明。</li> <li>・戦国大名の領国経営の一例を資料から読み取る。</li> </ul>	<p><b>SQ②</b></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">桜洞城はいつ、誰が建てたのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワーク。その後、全体で意見を共有する。 →戦国大名三木氏によって、永正年間 (1504～1520) に築城されたことを理解する。</li> <li>・戦国時代の飛騨の状況、三木氏による飛騨統一までの流れに関する説明を聞いて理解する。</li> <li>・三木氏と地域の有力寺社 (久津八幡宮、禅昌寺) との関わり=三木氏による寺社の再建をパンフレットの記述から読み取って、文章でまとめる。 →戦国大名の領国経営の特徴=領国民の支持が必要とされる領国支配者像を教科書の記述から確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークを行った際、作成した資料を活用する。</li> <li>・三木氏の飛騨統一までの過程に関する基本的な事柄を理解している。【知・理】 (プリント記述)</li> <li>・三木氏の領国経営に関する資料から有用な情報を適切に選択している。【技】 (プリント記述)</li> </ul>

<p>展開② (20分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「桜洞城跡フィールドワーク資料」、「諏訪城跡フィールドワーク資料」からグループワークを通じて、MQについて考える。</li> <li>・追加資料から、MQに対する探究を深める。</li> </ul>	<p><b>SQ③</b></p> <p><b>桜洞城と諏訪城の違いをグループでまとめよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で考察した後、グループで話し合い、意見をワークシートにまとめる。代表者が発表し、全体で意見を共有する。</li> <li>→①築城者、②築城年代、③城の構造などの違いをまとめる。</li> <li>また、諏訪城が三木氏を倒した金森氏によって築城されたことを資料から読み取る。</li> </ul> <p><b>SQ④</b></p> <p><b>なぜ金森長近は、三木自綱を滅ぼしたのか？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で考察した後、グループで話し合い、意見をまとめる。代表者が発表し、全体で意見を共有する。</li> <li>→金森長近の飛騨侵攻が豊臣秀吉の統一事業の中で行われたことを資料から読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「フィールドワーク資料」などの諸資料から、2つの城の相違点に関する有用な情報を適切に選択して、ワークシートにまとめている。【技】 (ワークシート記述)</li> <li>・議論が進まないグループに対して、資料①を参照するように助言する。</li> <li>・追加資料を配布し、より深く考察させる。</li> </ul>
<p>まとめ (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MQに対して、個人でアプローチする。</li> <li>・「織豊政権による統一事業」への予告。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MQに対する自分の考えを文章にまとめる。</li> <li>→豊臣秀吉の指示を受けた金森長近によって、三木氏は滅ぼされた。その結果、桜洞城は廃城となり、新たな支配拠点として諏訪城が築かれた。</li> <li>・SQ③で作成したワークシートの桜洞城、諏訪城の構造の違い(土塁→石垣、山城→平城)から、戦国時代から安土桃山時代への展開を教科書の記述から確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容を踏まえて、MQに対する自分の考えを記述できる。【技】 (プリント記述)</li> <li>・単元の基軸となる問いを掲示する。</li> </ul>

## 本時の工夫点

### ①地域社会の歴史から探究

- ・フィールドワークを実施し、地域の文化財、史跡周辺の環境の調査を経験した後、授業を実施した。
- ・身近な地域に関する資料を積極的に活用した。  
地形図、パンフレット、ふるさと記念館の展示パネルなど
- ・地域社会の歴史と「日本史B」の学習内容が関連している部分を意識的に取り上げ、「日本史B」の学習内容をより深められるように試みた。

### ②歴史を考察し表現する学習

- ・フィールドワークでの生徒の考察を資料として活用した。  
「桜洞城をさぐる」、「諏訪城をさぐる」
- ・資料を読み取る作業を授業内に複数設置した。
- ・諸資料から有用な情報を選択し、三木氏から金森氏へ飛騨地方の支配秩序の変化が、豊臣政権の統一事業の展開の中に位置付けられることを解釈させる。

「戦国時代の飛騨地方」(教科書p147~152、p160~161)

2年 組 番

本時の目標

(1)「桜洞城」は誰が、いつ建てたのか？

①誰が？ [a ] ②いつ？ [b ]

(2) 三木氏とはどのような一族か？

①応仁の乱(1467年)前後

・守護 [a ] 氏が支配。(資料集p125)

→守護の家臣であった三木正頼が軍功をたてて、

[b ] 郷の代官となる。



②永正年間(1504~1520)

→三木直頼(?~1544)が [c ] 城を築き、各地の国人を家臣にしていく。

③元亀元年(1570)

→三木良頼が織田信長の配下になる。

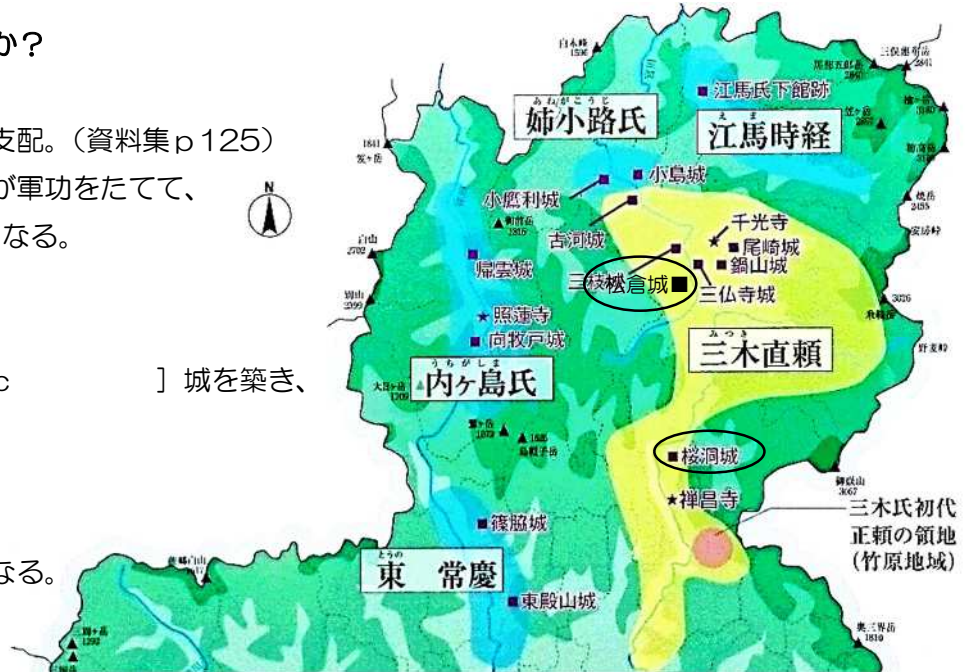
④天正10年(1582)

→ [d ] が江馬氏を滅ぼし、飛騨を統一する。

※松倉城(高山市)=夏城、桜洞城(萩原町)=冬城

⑤天正10年(1582)、織田信長が本能寺の変で明智光秀に殺される。

→三木自綱は、越中(富山県)の [e ] と協力関係となる。



Q1 : Aの神社、Bの寺はどこでしょうか？



[a ]



[b ]

Q2 : パンフレットの「由緒」を読んで三木氏との関わりを読み取ろう。

A

B

(3) 桜洞城と諏訪城の違いをまとめよう。

作業①：桜洞城跡・諏訪城跡のフィールドワークを行った際にまとめたプリントを参照して、ワークシートを完成させよう。

・ワークシート「桜洞城と諏訪城の違い」

	桜洞城	諏訪城
築城者		
築城年代		
城の守り		
城の立地		
その他		

作業②：「三木氏と金森氏との関係はどうだったか？ 共存？ or 敵対？」考えよう。

作業③：【深める】 [ ] を  
資料④・⑤と「(2) 三木氏とはどのような一族か？」(左ページ)から考えよう。

本時のまとめ 近接する2つの場所に城があった理由は・・・



本時の目標

なぜ近接した場所に2つの城が作られたのか考えよう。

(1)「桜洞城」は誰が、いつ建てたのか？

①誰が？ [a 三木 直頼 ] ②いつ？ [b 永正年間 (1504~1520) ]

(2) 三木氏とはどのような一族か？

①応仁の乱(1467年)前後

・守護 [a 京極 ] 氏が支配。(資料集p125)

→守護の家臣であった三木正頼が軍功をたてて、

[b 竹原 ] 郷の代官となる。

②永正年間 (1504~1520)

→三木直頼 (?~1544) が [c 桜洞 ] 城を築き、各地の国人を家臣にしていく。

③元亀元年(1570)

→三木良頼が織田信長の配下になる。

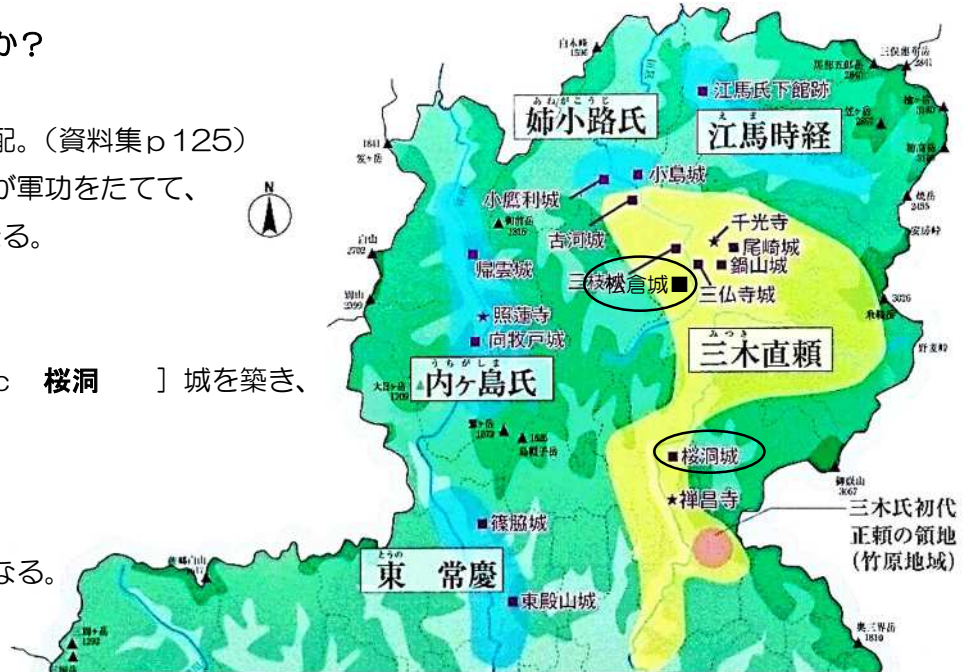
④天正 10 年(1582)

→ [d 三木自綱(ヨツカ) ] が江馬氏を滅ぼし、飛騨を統一する。

※松倉城 (高山市) = 夏城、桜洞城 (萩原町) = 冬城

⑤天正 10 年(1582)、織田信長が本能寺の変で明智光秀に殺される。

→三木自綱は、越中(富山県)の [e 佐々(ササ)成政 ] と協力関係となる。 ←マーカーで色付け



Q1 : Aの神社、Bの寺はどこでしょうか？



[a 久津八幡宮 ]



[b 禅昌寺 ]

Q2 : パンフレットの「由緒」を読んで三木氏との関わりを読み取ろう。

A 天正9年(1581)、三木自綱によって、現在の拝殿が建築された。

B 天文元年(1532)、三木直頼によって、再興された。





## 授業の事後分析

### (1) 授業のねらいと達成度

#### ねらい①

身近な地域の史跡（桜洞城址、諏訪城址）のフィールドワークを実施する。その後に授業を行うことで、生徒の興味・関心を引く。また、地域への愛着を深める。

#### 【生徒の感想（授業アンケートより）】

- ・萩原に2つも城があることが分かったし、清風から見えるというのもすごい学校だと思いました。豊臣秀吉が関わっていたと聞いて、誰でも知っている人が関わっているのはおどろきました。話を聞いたただけだとそうなんだと思うだけだったけど、実際に行ってみると城の大きさやどのようなつくりなのかが目で確認できて良かったです。
- ・桜洞城と諏訪城はただ近い所に城を建てただけだと思っていたけど、同じ城でもたくさん違いがあって見比べるのもおもしろいと思った。あと、2つの城にも歴史があって、昔の地域の歴史もおもしろいと思った。
- ・益田清風の近くに2つも城があったなんて知りませんでした。萩原にはすごい歴史が残されていたんだと実感しました。また、バス通学で「禅昌寺前」というバス停があって、この地域にある神社や寺も前から気になっていました。そのお寺が、今回学んだことに関わっているということも知れて良かったです。
- ・諏訪城とかは小学校とか中学校でよく行っていたけど、誰が築いたとか何年にとか詳しくは知りませんでした。桜洞城は、小学校の時に行った気はするけどあまり記憶はなかったので、今回いろいろ知れて良かったです。たくさんの歴史があったことに驚きました。
- ・フィールドワークという、実際、その場に行って自分の目で確かめるのは教科書の写真からでは感じることのできない何かを感じることができてとても良いと思いました。

→フィールドワークの実施、身近な地域の学習に対する生徒の感想は肯定的なものが多く、生徒の授業に対する興味・関心の向上がみられた。

#### ねらい②

諸資料（資料集、國史大辞典、フィールドワークの考察シート、地域の文化財のパンフレット）から有益な情報を選択し、三木氏から金森氏へという飛騨地方の支配秩序の変化を、豊臣政権の統一事業の展開の中に位置付けることができる（MQへの回答／歴史の解釈）。

#### 【生徒の達成度（授業後の評価）】

#### MQ「なぜ、近接した場所に2つの城が作られたのか」に対する解答への評価

#### [本授業の評価規準]

- A** ①金森長近が豊臣秀吉に属していたこと  
②三木自綱が豊臣秀吉と対立した佐々成政と協力関係にあったこと（反豊臣秀吉側であったこと）  
③①、②により、金森長近が三木自綱を倒し、桜洞城を廃城とし、諏訪城を築いたこと  
以上、3点が記述されている。

#### 具体例（生徒のプリント記述より）

- ・豊臣秀吉の配下である金森氏と、反秀吉の佐々成政と協力関係にある三木氏が戦って、金森氏が勝利したので、桜洞城を築いた三木氏が滅びて、新しく金森氏が諏訪城を作ったので、近くに2つの城がある。
- ・反秀吉側の三木氏が飛騨を統一していたが、秀吉が全国統一を進めていく中で、秀吉の配下にいた金

森氏が三木氏を倒し、飛騨を平定するために桜洞城の近くに諏訪城を建てた。

- B** 金森長近が三木自綱を倒し、桜洞城を廃城とし、諏訪城を築いたことは記述されているが、豊臣政権の統一事業の展開（A①、②）に関する言及がない。

具体例（生徒のプリント記述より）

- ・もともと三木氏が城を建てていて、1つだけだったけど、金森氏が三木氏を倒したので、金森氏が支配するようになったから。

- C** 事実を誤認。または、質問に対する解答になっていない。

具体例（生徒のプリント記述より）

- ・土地がよかった。わざと近くにつくって、力の差を示したかった。

[解答の集計]

- ・クラス1（15名）

評価A：5名（約33%） B：10名（約67%） C：0名（0%）

- ・クラス2（20名）

評価A：5名（25%） B：14名（70%） C：1名（5%）

→金森氏と三木氏の関係については、歴史的事象を理解し、記述することができていた。しかし、豊臣政権の統一事業との関連について、記述している生徒が少なかった。原因としては、①「本時のまとめ」（MQへの解答）を記述する時間を授業内で設けることができず、自宅課題としたことによって、学習理解度が低くなった状態での記述となったこと、②「本時のまとめ」を生徒が記述する際、「できるだけ詳しく記述しよう」など、授業の成果を反映した記述になるような指導、助言がなされなかったことが挙げられる。今後、改善していきたい。

## （2）成果と課題

### 【成果】

①地域学習を通史に関連させて学習すること、授業で扱った地域の文化財の現地調査（フィールドワーク）を行うことで生徒の授業への興味・関心が向上する。

→大まかな時代区分ごとに地域学習を配置し、フィールドワークを実施することが可能。

[具体例（益田清風高校の場合）]

原始 ・縄文時代の交易 下呂石

古代 ・律令制 飛騨の匠

中世 ・戦国大名 三木氏など飛騨の戦国 →フィールドワーク「桜洞城址」「萩原諏訪城址」

近世 ・近世の物流（川下げ）

近代 ・明治維新 梅村騒動 →フィールドワーク「陣屋の刀傷」「梅村堤防」

・近代の産業 益田糸 初午団子 野麦峠 ダムの建設 高山線の開通

・近代の文化 地歌舞伎 →フィールドワーク「白山神社の拝殿舞台」

※こうした地域学習は、授業進度や各学校所在地の地域性に応じて実施していくと良いと思われる。

※なお、益田清風高校には、「地域研究」、「観光地理」、「社会探究」といった地域調査を重点的に行う授業もある（益田清風高校 学校HP「スクールライフ」「学習活動」参照）。

②授業で扱う資料を精選すれば、生徒の「有益な情報を適切に選択する」力＝資料活用の技能は伸ばすことができる。

→資料の精選のためには、普段の授業、定期考査を通して、生徒の学力を把握することが前提となる。生徒の学力に応じて、「簡単すぎない、難しすぎない」資料を選択すること（事前準備）が重要である。

[生徒の感想（授業アンケートより）]

- ・様々な資料を照らし合わせて考えると、近いところに2つの城が必要だった理由や、なぜあの立地にあったのか、その理由も明確に分かり、とても楽しかった。
- ・資料を見ると、身近な城を築いた2人が有名な織田信長と豊臣秀吉とつながりがあったことが分かり感動した。

→資料を活用して、歴史的事象を明らかにしていく作業に面白さを感じた生徒も存在した。

[授業後研究会での他委員からの感想]

- ・先生の読み取らせたい内容を読み取らせきっていた（佐々氏のくんだり）。
- ・資料の適切な活用が良かった。

③受動的な生徒、自信の持てない生徒が多いクラスでは、ペアワークやグループワークが有効である。

→生徒は「対話の中で自己を確認」し、「他者を活用して自分を高める」という指摘が授業後研究会であった。授業の展開の中で、こうした活動を適切に位置付けていくことが重要である。

[生徒の感想（授業アンケートより）]

- ・1人で考えても分からない時とか、本当に自分の答えがあっているかが不安な時に、4人とかのグループで話し合うと、他の人の意見を聞いて、なるほどと思えるし、私もそうやよと言われると安心できるのでグループで話せるのはいいなと思いました。
- ・グループで話すことで、他の人の意見が分かり、みんなから出た意見なので発表するときに自信がもてて良かった。

### 【課題】

①評価規準は生徒へ事前に伝達することが重要である。

- ・評価は、「生徒の力を測るもの」ではなく、「生徒のどの部分を伸ばしたいか」で設定すべきという指摘が授業後研究会であった。

→生徒に評価を意識させることで、生徒が活動に取り組む姿勢、意見を発表する際の姿勢が変わってくる。そのためには「生徒が評価規準を分かっている」ことが大切だと思われる。今回の授業では、プリント記述を事後評価する形となったが、今後、授業中の活動内容を評価する際に上記のことを意識していきたい。

②グループワークの「質」は向上させることができる。

- ・グループ分けが「近い席」というだけで明確な目的がなかった。学力の高い生徒が複数いるグループが授業をリードする展開になっていたため、意図的にグループ分けを行っても良い。
- ・ワークシートに書き込んだ意見を発表していく場面で、答えが複数存在するような問題についても1グループの発表にとどまっていた。全グループが何らかの方法で意見が発表できるような工夫がされると良い。

→グループワークには「エキスパート活動」や「ジグソー活動」など様々な方法がある。グループ決め、話し合い、司会者決め（あるいは決めない）、話し合う時間や方法、発表の仕方など、その授業の目的に応じて、柔軟かつ適切にグループワークを行っていけると良い。

## 評価問題例

問1 次の写真A・Bの場所は、下呂市萩原町の名所である。どこか答えなさい。

A



B



問2 益田清風高校の近くにあり、フィールドワークでも訪れた桜洞城と諏訪城の立地や構造上の違いを説明しなさい。

問3 なぜ、桜洞城と諏訪城という2つの城が近接した場所に存在するのか。その理由を次のキーワードをすべて用いて説明しなさい。

キーワード

金森長近 佐々成政 豊臣秀吉 三木自綱

## 解答例

問1 A：久津八幡宮 B：禅昌寺

問2 桜洞城：高い崖の上に作られた

土塁、空堀がある（土で城の防御施設が作られていた）

諏訪城：桜洞城に比べて、比較的平坦な場所に作られた

石垣、矢倉がある（石で城の防御施設が作られていた）

問3 豊臣秀吉に属していた金森長近によって、反豊臣の佐々成政と協力関係にあった三木自綱は滅ぼされた。その結果、桜洞城は廃城となり、新たな拠点として諏訪城が築かれたから。

## 事後分析

[クラス1（15名）の正答率]

問1 A 正解：6名（40％） 不正解：9名 B 正解：11名（約73％） 不正解：4名

問2 正解：14名（約93％） 不正解：1名

問3 正解：11名（約73％） 不正解：4名

→フィールドワークで訪れた桜洞城、諏訪城に関する問い（問2）については正答率が高かった。一方、授業中に写真で確認しただけの久津八幡宮の正答率は低かった。実際に現場を訪れることの重要性が再確認できた。問3については、授業のMQを出題した。授業プリントの記述（評価A：約33％）よりも正答率が高く、生徒は授業後の復習を通して、各人物の相関関係を理解したことが分かった。